

「見方・考え方」を鍛えるための小学校社会科授業内容
——リヴォイシングを活用して行う大学の模擬授業を事例として——

The Contents of Social Studies for Elementary Education to Develop “Viewpoints and Ways of Thinking”:

A Case of Trial Teaching in a University Using the Revoicings

本多千明* 奥田修一郎**

HONDA, Chiaki* OKUDA, Shuichirou**

要旨

本研究では、大学の授業で学生が模擬授業を行う際に、リヴォイシングを活用した指導を行うことで授業内容が活性化し、「見方・考え方」を鍛えることができるのではないかと考えた。そこで、リヴォイシングに関する先行研究を整理し、大学の模擬授業を分析することで、どのように「見方・考え方」を深めることができるようになったのかを明らかにする。リヴォイシングとは、児童の発言を再明確化（reformulation）することである。つまり、物事を多様な理由について考え、専門的な用語として紹介するといったことを通じて、明確にさせることや、発言した児童に主題や他の児童と連携したり対立したりする立場を与え、話し合いの中で物事を位置づけるものである。そこで、本研究では、実際の模擬授業やメンタリング、振り返りを検証することで、リヴォイシングを活用して行う授業内容について考察し、「見方・考え方」を鍛えるための方策について明らかにすることを目的とする。

1. はじめに

多くの教育系大学・学部では、教員養成プログラムの見直しが行われている。その一つが教育実践の場に触れる機会を増やし（模擬授業をはじめ、教育・地域ボランティア、インターンなど）、実際の体験を通して、「授業技術」や「児童理解の方法」を習得させるものである。

さて今回、教員を目指す学生に対して、2018年度の「社会科内容論」の授業開始時に、アンケート調査を行った。

その結果は、不安に思っていて、学んでいきたいこととして、教材研究・学習内容、社会科としての専門的知識などへの不安が上位を占めていた。その一方で模擬授業後の振り返りでは、実践力に関したことが、子どもとの「やり取り」・「返し」や時間配分などの授業スキルに関したことが、今後の課題であると答えている学生が半数を超えていた¹。実際に子どもを前にした授業（教育実習）ではないにしても、模擬授業を通して、具体的な授業場面を想定した授業実践力（スキル）の必要性をより感じるようになってきていると言える。「グループ活動のさせ方」「ICTの有効的な活用方法」「学習規律の徹底化」「授業の流れ」「板書」などの授業技術を身に付けるということ自体に対して、現場対応力育成ということであれば、反対の立場ではない。ただ、「内容が伴わない方法」追究になっていないかを省察しながら進めていくことは大切である。はじめに述べた学生のアンケートにあった「やり取り」・「返し」にしても、単なる技術だろうかと思う必要がある。「やり取り」は授業技術として習得できるものだろう

か。そもそも「やり取り」とは何を指して言っているのだろうか。「やり取り」を社会科という教科で捉える時、どんなことが見てくるのか、という問題意識を持った。

2. 研究の方法

先行研究では、「やり取り」という捉えではなく教室談話に着目したものがある。教室談話が学習にとって大切であり、仲間や教師と議論しながら知識を作り出すことにより、深い学びに至ることが指摘されている。ただ、同じような教室談話があったとしても、成績に違いが出てくるのは、その談話の聴き方によるとされており、秋田は、「相手の言ったことをただ受動的に理解できるというだけではなく、その声を取り込み応答し、また聴き手に届けていくことができることによって教室談話は深められる。」と指摘する²。談話という言葉でなく対話に着目しているものもある。対話と言えば、佐藤学が提唱した「学びの三位一体論」からの3つの次元での対話実践である。第一の次元は、対象世界（題材・教育内容）との対話的实践であり、第二の次元は、教師や仲間との対話的实践、もう一つの第三の次元が自分との対話的实践である³。また、「リヴォイシング」⁴という視点からの先行研究もある。一柳は、児童の聴くという行為及び学習に対する教師のリヴォイシングに着目する研究⁵を展開し、児童が話し合いをどのように聴いていたのかを検討した。秋田、佐藤、一柳の研究の背景には、学力論や学習指導理論があり、学校現場での授業を通して、さらに理論化を進めていっているものである。

* 武庫川女子大学 (Mukogawa Women's University)

** 大阪教育大学 (Osaka kyoyiku University)

本研究では、談話や対話という視点ではなく、リヴォイシングに着目する。それは、普通の授業で授業者がおこなっている「受け答え（学生の言葉を借りれば）」に近いと考えるからだ。ただ、あとで定義の整理は試みたいが、リヴォイシングは対象世界・他者・自己との対話をめざしていると筆者らは捉えている。考察する授業は、教員養成プログラムの一つとしての「模擬授業」である。さらに、この研究では、「リヴォイシング」を意識した模擬授業づくりを通して、①授業者はどこまで自分の発話に対して自覚的であるのだろうか。②児童役の発言を正しく聴きとれているのか、③リヴォイシングで大切にしていることは何か、④リヴォイシングの中で、授業者は何を考えさせようとしたのか。⑤教材研究ではどんなことを調べていったか、⑥教材研究をもとに授業をしてみて難しかったのはどこか。⑦次なる課題は何かを事前メンタリング、事後検討会、事後メンタリングから聞き取り、授業者に省察させていく。その中で、社会科という教科の中で「主体的で対話的な深い学び」をつくるためにはどうすればいいかを学生が考えるきっかけ（糸口）になるかどうかを明らかにする。

本研究では、「リヴォイシング」（方略）とは何かを整理する。次に、社会科という教科での「リヴォイシング」とは何かを考察する。その際、次期学習指導要領の一つのキーワードになっている「見方・考え方」とはどんなこととして理解すればいいのかを概観する。次に、学生がぶつかる「アポリア」にも言及する。最後に、学生との事前メンタリング、検討会、事後メンタリングの記録から、そのアポリアにどのように学生は向き合っているのか、そこから次の課題につながるものは何かを考察していく。授業者が教室内でのリヴォイシングを意識することで、社会科の教科に固有の見方・考え方を深めることになるのではとの仮説を基に、本研究では、上記の研究手法により、「主体的で対話的な深い学び」を行うことができる授業内容を明らかにすることを目的とする。

3. そもそも「リヴォイシング」（方略）とは何だろうか

まず、リヴォイシングであるが、O'Connor & Michaels (1996) は「議論の中で他の参加者によって行われる、口頭もしくは書き言葉での、ある生徒の発話の、ある種の再発話」と定義している。さらに、リヴォイシングのいくつかの機能も指摘している。ここでのリヴォイシングは話し合いを組織化するための観点から捉えられている。機能の一つとして、児童の発言を再明確化（reformulation）することをあげられている。つまり、多様な理由があると考えさせ、内容や関連性の説明をしながら、慣れ親しんだ日常的な考えを専門的な用語として紹介するといったことを通じて、明確にさせていく機能である。また、位置づけ（positioning）という機能も示している。これは、発言した児童に主題や他の児童と連携したり対立したりする立場を与え、話し合いの中で位置づけるものである。リヴォイシングにより、理由付けをより

客観的にかつ明瞭にできるようにすることで、グループで説明するときも、効果的なコミュニケーションがとれるようになるとする。このリヴォイシングは、教師から児童（生徒）だけでなく、児童同士のものも含まれているが、O'Connor & Michaels が研究していたクラスでは、教師から児童へのリヴォイシングが圧倒的に多かったとしている⁶。

リヴォイシングは、教師の言葉による介入とも捉えられている。田島は、リヴォイシングと関連させて再声化介入法として「再編集」「拡張的引用」「深化」の方法に注目した。まず、「再編集」とは、学習者が行った発話内容が言語的に不明確なものである場合、その発話を引用した上で意図を確認し、他の実験参加者にも理解可能な形に直して提示する介入であり、「拡張的引用」という介入には、授業者自身が生徒の発言の内容を拡張して、そこから得られる新しい観点から、生徒相互の意見の検討を誘う機能があるとする。「深化」は自らの概念読解を授業者の提示する発展的な課題と結びつけ、さらに検討を深めていくことを意図した介入である⁷。これらは学力形成に向けた指導方法として示唆に富んでいる。また、リヴォイシングは学習者の理解を深めるだけではない。学習者と学習者を授業に位置づけるだけでなく、関係面でもつなげていくことも含まれている⁸。リヴォイシングの機能・目的はこれ以外にも考えられる。さきの「対象世界」「教師・仲間」「自分」との対話という視点と社会科教科の面を意識して、次頁の表1「3つの次元での小学校社会科におけるリヴォイシング例」にまとめた。これまで、小学校社会科でリヴォイシングに注目した研究はなされておらず、授業内で想定される具体的なリヴォイシングを提示することにより、対話的な授業を一般化できるのではないかと考えた。

しかし、表1のまとめには書かれていない授業実践でのリヴォイシングに、現場で授業を担当されておられる先生であれば、気付かれることはないだろうか。授業という場では、対話を成立させるために、さまざまなリヴォイシングを行っている。生徒の発話は必ずしもフォーマル（授業にそくしたもの）なものばかりではない。インフォーマル（脈絡から多いに外れた）な発話もある。それに対して、どんな対応するかはさまざまであろう⁹が、その発話の背景をさぐり、その発話をどう授業に活かせばいいのかを即興的に考えながらリヴォイシングをしている。また、自尊感情を高めるような評価を積極的におこなっているケースも多く見受けられる。これらは対話を成立させるための前提であり、言い換えれば「聴きあえる」関係づくりをおこなっているとも言える。

本研究では、「関係づくり」という面に力点を置くのではなく、「世界づくり」¹⁰という面に注目してのリヴォイシング活用を大学で行う模擬授業から考察する。

表 1 3つの次元での小学校社会科におけるリヴォイシング例

	対象世界（題材・学習内容）	教師・仲間	自分
具体的な発話として	<ul style="list-style-type: none"> ・別な言い方をすると？ ・すでに知っていることとつなげて言ってみてください。 ・〇〇と比較してみるとどうなるだろうか。 ・〇〇と関連付けると。 ・総合して考えるようになるか。 ・資料から読取り取れることは何か。逆に読み取れないことは？ ・この他にどんな資料があるといいのだろうか。 ・根拠づけて言ってください。 ・別な見方はできないか。 ・この見方から考えてみるとどうなる？ ・それはどんな見方から考えたのだろうか。 ・〇〇の立場から考えるとどうなるだろうか。 ・あなたの意見に対して、対立意見や反駁にはどんなものがあるだろうか。 ・そもそもそれはどういうことなのか。 ・それはどういう意味があるのだろうか？ ・これからどうなると予想できるだろうか。 	<p>[一斉授業の中で]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんをつなげて考えてみてください。 ・ちがった面から考えられないだろうか。 ・〇〇さんとのちがいははっきりさせるとどうなるか。 ・みんなにわかるように言い換えてみてください。 ・仲間の意見・考えの良さを踏まえて意見を組み立てると。 ・〇〇の意見についてどう考えたか。 <p>[グループ学習の中で]※生徒同士のリヴォイシングになる。</p> <p>※対象世界に対しての発話はいはいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別な言い方をすると。 ・知っていることから考えよう。 ・比べると。 ・関連させて考えよう。 ・それはどこからわかる。 ・別な見方はできないか。 ・納得できないことは。 ・わかったことは何か。 ・〇〇の立場から考えるとどうなるだろうか。 ・他に考えられないだろうか。 ・理由がわからない。理由付けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・身についたことは何。 ・わかったことは何か。 ・反対にわからなかったことは何だった。 ・自分の言葉で説明してみてください。 ・自分の言葉で考えたことを振り返ってください。 ・次に考えてみたいと思ったことは何か。 ・新たな疑問は生まれなかったか。 ・それを次にどうつなげるのか。 ・深まったことは何だろうか。

表は、奥田作成。

4. 社会科における「見方・考え方」とは

新学習指導要領には「見方・考え方」を鍛えることで、学習の充実（授業改善）をはかることとされている。中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 平成 29 年 12 月」（以下「答申」と略）では、この「見方・考え方」が、「主体的・対話的で深い学び」の視点、とりわけ「深い学び」の中に位置づけられていることは周知のことだ。また、「答申」には、社会的な見方・考え方（追究の視点や方法）の例（案）として、○位置や空間的な広がり、○時期や時間の経過の視点、○事象や人々の相互関係の視点の 3 つをあげ、これらの視点に着目して社会的事象を見出すこと、また、その際、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすることで、社会的事象の特色や意味などを考え、社会に見られる課題を把握し、社会への関わり方を選択・判断できるようにすることが書かれている。「答申」には「視点」の例として、地理的分野では、「地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、など」のような見方で示されている。その一方、新学習指導要領では、3 年の「身近な地域や市町村の様子」の学習では、「都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。」とあり、若干の表現の違いから、学生の中には理解する際の戸惑いが見られた。しかし、今回の学習指導要領では、この「見方・考え方」を鍛えることでの学びの充実化を、小学校だけでなく中学校、高等学校という縦軸

の中ではかのようにしている。そのこともあり、地理的分野であれば、「中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 社会編」に載せている地理学研究の 5 つの中心概念（①位置や分布、②場所、③人間と自然環境との相互依存関係、④空間的相互作用、⑤地域、）を授業者が理解することで、より「見方」の意味するものを掴むことができ、授業（生徒にとってみれば学習）を充実させることができるようになっていく。これは、経済的分野でも同じことが言える。中学校では、「効率」「分業と交換」が見方・考え方の例としてあげられている。小学校では「工夫」という言葉がよく使われているが、その「工夫」の背後にあるものをさらに考察することで、その工夫の内実が、3 年の「販売の仕事」であれば、「売り上げを高めること」であり、5 年の「我が国の農業や水産業における食料生産」では「かかる費用を考えての生産」「価格は市場で決められる」という理解にもつながる学びを想定している。この意味では、小学校学習指導要領の内容理解にとどまらず、幼稚園、中学校、高等学校との学びの連続、積み重ね、カリキュラム・マネジメントが必要とされているということであろう。

リヴォイシングという言葉ではないのだが、社会的事象の特色や意味などを考えるための「問い」の例が、中央教育審議会における社会科、地理歴史科、公民科ワーキンググループの補足資料として示されている¹¹。それは、○どのように広がっているのだろうか？○なぜ、この場所に集まっているのだろうか？○地域ごとの気候は、どのような自然条件によって異なるのだろうか？○いつ、どのような理由で、はじまったのだろうか？○どのように変わってきたのだろうか？○なぜ、変わらずに続いているのだろうか？○どのような工夫や努力があるのだろうか？○

どのようなつながりがあるのだろうか？○なぜ、△△と□□の協力がひつようなのだろうか，などである。これらはメインの発問になる面があるが，一方で生徒の発言を吟味し深めていくリヴォISINGの一面も持っているといえられる。

さて，以下にA大学での2018年「社会科内容論」の講義内容を紹介したい。15回を通して，「見方・考え方」を意識しての内容を組んだものである。1時間ごとの振り返りからは，それぞれの単元での「見方・考え方」を理解し，「見方・考え方」を意識した授業展開は授業者にとってもわかりやすく，教材研究も進めやすいといった感想が多く見受けられた。しかし，最後の小テスト（歴史の単元でメイン発問を3つつくろう）の記述からは，時期や時間の経過の視点での発問をうまく考えることができない受講者が見られた。教科内容の知識はあっても，「授業を想定した教科内容知識」¹²が身に付けられていないことが一つの要因ではないかと推測される。

表2 2018年度私立A大学「社会科内容論」のテーマと内容

	テーマと内容	教科内容
第1回	○子ども達は社会科が好きなのか？どんな授業をのぞんでいるのか？①社会科は暗記科目なのか？アンケート，社会科の目標とは？（小学校）	・アンケート
第2回	○見方・考え方って何だろうか？主体的で対話的な深い学びをつくるために ①アンケートから，「社会科は暗記科目なのだろうか」②新テストの問題から考えること③今までは，「資質・能力」（問題を解決する力をつけることなのか）それとも，「知識・技能」（系統的に学ぶことで社会がわかる）の2つの社会科授業観が対立？④今回，登場したのが「見方・考え方」これって何なのか。⑤別の角度から，学力をとらえる。3つの層から考える。「対象世界」「他者（仲間）」「自分」⑥スウェーデンの教科書から，「見方・考え方」について深めてみよう。 ⑦3年生では，スーパーの販売の学習をするとは何か。この時の「見方・考え方」が工夫・努力 ⑧調べるという学習もあるが，自分たちでお店や会社をつくることで，「工夫・努力」を考えさせることもできる。ワークショップをやってみよう。	・見方・考え方とは何か？
第3回	前半 見方・考え方を鍛える授業づくり「会社やお店をつくってみよう」後半：教科書は，どのような授業内容構成になっているのかを調べてみよう。	3年生の内容：地域に見られる生産・販売の仕事
第4回	小学校の教科書から考えよう。①教科書の性格とは？②社会科教科書では，どのような授業構成をすすめているのか。③教科書の構成要素を調べてみよう。④教科書にはどんな機能があるのか。⑤この教科書でどんな授業がつけられるのか？	問題解決学習とは？仮説→探究→深める→いかす
第5回	○販売の仕事・生産の工夫の背景にあるものとは何か。 ①公民的な視点にはどのようなものがあるのか。 ②工夫・努力では，売り上げ，利益，費用を考えるように指導要領の解説では書かれているが，これはどんなことか。③身近な地域・市町村の様子では何に着目しているのか。	3年生の内容：身近な地域・市町村の様子

第6回	○地理的な見方とは何か？ ①位置・分布とはどんなこと？②韓国の教科書では，このような説明になっている。③自分の出身地を地理的な見方で紹介しよう（ワークショップ）。	地図帳の使い方 3年生の内容：身近な地域・市町村の様子
第7回	○3年での農家の仕事や工場の仕事を学んでいく上でのポイントとは何だろうか。 ①すぐれた実践に学ぶ 15時間プランから学べること ②西宮の工業についての学習の進め方	地理的な見方だけでなく，歴史的な見方，公民的な見方も着目していく。
第8回	○4年の都道府県学習をどう進めるか。 ①都道府県クイズ ②自分のつくってきた都道府県新聞をグループで紹介し合おう。③新学習指導要領でのマイナーチェンジについて，ここが変わる！	4年生：都道府県の様子
第9回	○4年生での防災教育はどう進めていくのか？ ⇒授業の流れと着眼点をつかむ ①地域の防災マップをつくる。 ⇒地図を描く技能は，社会科の中で基本的なスキル ②5年生での防災教育の視点 ③西宮市で防災教育を行うとすれば，どんな教材があるのだろうか。	4, 5年生：自然災害から人々を守る活動（防災教育）
第10回	○さまざまな防災教育について調べ体験しよう。中心は「避難所運営ゲーム」	5年生：防災教育
第11回	○前回のゲームの振り返りの共有と次なる課題 ①小5ギャップとは何か？ ②それを乗り越えるのに必要なこととは何か？ ③自動車工業の学習をすすめる上での見方・考え方とは何か？④宿題：情報産業の学習をすすめる上での見方・考え方とは何か？	5年生：日本の国土，我が国の産業
第12回	○すぐれた実践に学ぶその2（指導案をどう書くのか，どんな資料を集めるのか） ①前回の続き「自動車工業」の授業を進めていく上でのポイント②「我が国の産業と情報との関わり」の単元をどのように学習したらいいのか。 ③次回までの宿題として（歴史人物，平和学習）	5年生：我が国の産業
第13回	○歴史の授業をどう進めたらいいのだろうか。 ①歴史的な見方とは何か。②エンパシーとは何か，これで授業をつくる？	6年生：我が国の歴史上の主な業績
第14回	○教材とは何か，教材はどのようにつくればいいのか？①絵本から教材をつくってみよう。 ②根拠をつけて説明するための図式から学べること。（トゥールミン図式）	6年生：我が国の政治の動き，グローバル化する世界と日本の役割
第15回	○もう一度，見方・考え方は何かを考えてみよう。 ①資料をじっくり読み込もう。②資料から問いをつくろう。③授業の発問にしていこう。④小テスト（見方・考え方をふまえて）	見方・考え方の復習と活用

5. 学生がぶつかる3つのアポリア

これまでの授業や模擬授業からだが，学生にとって授業づくりは，3つのアポリア（行き詰まり）にぶつかってしまっているといえるのではないだろうか。1つ目は，教材研究で教科内容の知識を得たとして，実際目の前にいる生徒・児童を想定したものに翻案されていないことからおこる。また模擬授業とい

う場は、対象も同じ年代の学生であることから、教材研究をしても目の前の子どもの実態（学習状況理解の度合い）に沿ったものにしないと授業にならないため、ますます難しくしてしまう。ただ、大学生を相手にしたとしても、教科内容の知識を、個別の教室や集団の文脈で捉え直し、学習者の具体的な思考や解釈との相互作用の思考において吟味していく必要性を学べるという意味では、大学での模擬授業にも意義がある学びだと考える。2つ目は、教科内容の教材研究の仕方でおこる。今回の見方・考え方を鍛えることが全教科に求められているのは、それが教科固有の学びにつながることで期待されるからであるのだが、それには学問内容に関する知識が必要でもある。例えば、「効率」というと「無駄がない」という説明が教科書ではされるが、これは経済学でのバックボーンからすると「パレート効率」のことをさしている。分かりやすく言い換えると、学問知を身に付けていないと、「浅い」授業に陥るアポリアである。その概念を深く知ることによって教材研究の深さも変わってくるが、そこまで至らないことがあると推測される。そのため、理論をしっかり理解することは、社会科固有のリヴォイシングを意識することであると言える。3つ目は、学生が受けてきたこれまでの授業によることが多いのだが、授業を「対話」的实践として捉えられていないことからのアポリアだ。（1時間の授業の中で、受けてきた社会科授業のアンケートをとったが、社会科はひたすら覚えていたという経験が多く語られていた）。本発表では、リヴォイシングという言葉からのアプローチをしているが、そのベースには先に述べたように佐藤の言う3つの「対話」軸を置いている。新学習指導要領での「主体的」「対話的」「深い」も、この3つの軸にそって学びを豊かなものにする方向性をしめしたものだと言える。社会科の授業も対話であるという授業観をこれからどうつくるかが、これから教師を目指す学生にとっての課題になってくる。

6. 実際の模擬授業、メンタリング、振り返りの中で

実際のところ、3つのアポリアに学生がぶつかっているのだろうか。今回は2つの授業班の模擬授業に着目する。授業前の教材研究には、事前の教師側からのメンタリングを行う。授業後、本多、奥田の2人で授業班からの聞き取りを行う。聞き取る内容は、以下の①から⑥までの6つの内容である。①授業者はどこまで自分の発話に対して自覚的であったのだろうか。②児童役の発言を正しく聴きとれているのか。③リヴォイシングで大切にしていることは何か。④リヴォイシングの中で、授業者は何を考えさせ学ばそうとしたのか。教材研究ではどんなことを調べていったか。⑤教材研究をもとに授業をしてみて難しかったのはどこか。⑥次なる課題は何か。

武庫川女子大学の学生による模擬授業 No.1

9月5日（木）武庫川女子大学学校教育館 405

講義名「社会科内容論」（教育学部生以外の学生を対象とした集中講義、2019年8月28日～9月5日）第15回目

受講者：17名（教師役学生3名、生徒役学生11名）

表3 小学校第3学年『昔の道具とくらし』の模擬授業

設定：小学校3年でとても元気なクラス。積極的に挙手して下さい。

教師1	今日勉強していくのは、昔の道具とくらしです。今日のめあては（板書）
板書	むかしの道具とくらしを今とくらべてみよう！
教師1	めあてを音読してみよう。前のスクリーンを見てください。前回学習した『昔の道具』の教科書の挿絵です。このおひつは、どんな時に使うものだったかな？
生徒1	どんなものだったかな？
教師1	今だったら炊飯器だけど、これは何だろうか？（指名）
生徒2	ごはんをおいておく。
教師1	教科書の挿絵のつるべは、何をする道具ですか？
生徒3	井戸から水を汲むのに使った。
教師1	おひつは、炊いたコメの余分の水分をとってくれる。おいしいお米が食べられる。昔の知恵。
教師1	昔と今の暮らしでは全然ちがうことがわかりますよね。昔の暮らしってどんなのか、ワークシートを配るので書いてください。近くの席の人と相談して3分で書いて下さい。
教師2	今と昔の違いについて、今は座っているけど、とか何をしているとか、よく見てください。まわり近所の人と自分の意見を交流してみてください。そろそろ聞いていきます。言ってくれる人？
生徒3	着物みたいな服を着ている。
教師2	そうだね。服のことを書いた人は他にいますよね。他にはどのような違いがありますか？
生徒4	わらでつくったものがある。
教師2	（教科書の挿絵の）どこに目がいきましたか？みとか。これは昔の人が自分でつくったものです。赤ちゃんがいるけど、その場所にもかごみたいなものがありますね。寝心地がよさそうですね。（みんなが話合っている間に）見てまわった時、〇印をつけたんだけど。
生徒5	テーブルと椅子がない。
教師2	では、食事は何の上に置いていたのでしょうか。
生徒6	わらの上。
教師2	床やおぼんの上なのでしょうか。他に気づいたことはありますか？よく見てみると、（家事の）役割が分担されていますよね。みんなの家では家事の分担はありますか？昔は一人ひとりの役割が分担されていたね。
教師3	それでは、先生からの質問です。この教科書のイラストにあるもので、今も使っているものがありますか？突然ですが、これを知っている人はいますか？（IHコンロを印刷したものを掲示する。）
生徒7	IHコンロ
教師3	このIHコンロの前に使っていたのは、どのようなものですか？
生徒7	コンロ。
教師3	（写真を前に貼る）これは？
生徒8	かまど。
教師3	他には、電話でみてみると（携帯電話、スマートフォンなど5枚の写真を前に貼る。）
教師3	洗濯をみていくと、今は全自動ですよね。これよりも前は？
生徒9	洗濯板？
教師3	洗濯板と全自動の間にあるのは？
教師3	二層式。ローラー付き。最終的に全てができるようになって、どんどん便利になってきていることがわかります。これらも、昔の知恵がみつっています。洗濯板も、100均に売っています。みなさんも、一度、洗濯板を

使って、洗濯をしてみてください。これで、授業を終わります。

【授業後の講評及び感想】

- ・机間指導がよくできていた。
- ・1人目の教師1がめあてを書いて、音読し、生徒役の発言を板書した。
→板書もリヴォイシングであるので、大切。
- ・2人目の教師2は、グループワークの間、机間巡視をすることで、グループ内での発言をよく聞くことができた。→グループワークで話し合いの内容を聞き取るのは、大事。
- ・3人目の教師3は、一人一人の意見をきちんと聞くことを心掛けた。
→これは、承認リヴォイシングである。

(表中の→は、聞き取り者からのコメントである。以下、同様。)



写真1：授業で使った教科書の挿絵

武庫川女子大学の学生による模擬授業 No.2

9月5日(木) 武庫川女子大学学校教育館 405

講義名「社会科内容論」(教育学部生以外の学生を対象とした集中講義、2019年8月28日～9月5日) 第15回目

受講者：17名 (教師役学生3名、生徒役学生11名)

表4 小学校第3学年『都道府県の特産品について学ぼう』の模擬授業

設定：小学校3年でとても元気なクラス。積極的に挙手して下さい。

教師1 みんなが住んでいる国は？

生徒1 日本

教師1 3人ほど前に書きにきてほしい。

(3人が出てきて描く)

教師1 (それぞれの評価) 正解は！日本はこんな形をしています。

教師1 都道府県のことを勉強していきます

教師2 3～4人のグループにわかれてください。地図と特産品カードを渡していきます。そのカードを地図に貼っていきましょう。(地方別)

生徒 わからない、どれだろう。→ここでのそれぞれのRに注目する。

教師2 北海道・東北を担当していた班

生徒1 青森のりんご

教師2 関東、東海、北陸

生徒2 山梨のぶどう

教師2 ぶどうが有名 近畿は？

生徒3 明石のタイ

教師2 中国 九州

生徒4 長崎のカステラ 修学旅行でのおみやげに買ってください。グループ活動を終わります。

教師3 次に兵庫県だけをみていきます。プリントをくばります。プリント①の特産物をえらぼう。ヒントが4つあります。①を発表してもらいます。

生徒 たまねぎ、神戸牛 いかなご、ソーメン

教師3 いかなごは海に面しているからとれるんだね。

教師3 これも発表してもらいます。

生徒 神戸、日本海 瀬戸内海、淡路島、

教師3 有名な花は？知らない人が多いけど、のじ菊が有名。 県鳥は？

生徒 コウノトリ

教師3 マスコットは？

振り返り

【授業後の講評及び感想】

- ・いろいろな反応が難しい。
- ・グループでの反応がちがっていた。
- ・こまごまとした準備ができていた。前に生徒の意見を書いて欲しいとの感想があった。また、都道府県の気候との関連を伝えると理解しやすかったと思う。



写真2：実際のグループ活動の様子

次に、模擬授業を行った授業者から聞き取りを行い、リヴォイシングを活用した授業が、どのように効果があったのかどうかを検証する。

表5 授業者から聞き取った内容

① 授業者はどこまで自分の発言に対して自覚的であったのだろうか。

- ・自分が言いたいことに印をつけた。
 - ・正解が出なかったら、自分から言うつもりだ。
 - ・静かになってしまって、ヒントを出すのに思いつかない。
 - ・年表を担当していた、考える時間があってもよかった。
 - ・時間が足りない。わかってないグループの確認がしたかった。
- 日本地図を書いてもらうとき、手が上がらない場合にどうする？どうなって欲しかったか。
- 書いてもらう意図はあったのか。どうしたら楽しむか。あえてヒントをいうなら、日本地図に持って行くのかと思った。そうすると、見方という地図がはっきりする。書いたものが生きてくる。
- ・プリントの答えを答えてもらうときに、答えがなかなか出なくてこちらからあてたけど、どう返したらいいのかわかっていない人にどう返したらいいのかわからなかった。

→なぜコウノトリなのか、投げかけると良かったのでは。
<p>② 児童役の発言を正しく聴きとれているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取れたと思う。 ・あまり聞き取れなかった。 ・予想していた答えを返してくれたので、解説をしてしまって、終わってしまった。 ・聞き取れた。 ・グループワークだったので、返す場面がなかった。 <p>→グループの中で、リヴォイシングをさせて欲しい。グループの中で、子ども同士の様子も授業者が意識していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたかな。と思う。 ・一部はできたが、わからない答えの時に上手に答えることができなかった。
<p>③ リヴォイシングで大切にしていることは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかっていない人が多かったので、やり取りが上手くいかないと感じた時に自分から踏み込まないといけないと思った。 →生徒の発言を言い換えるのも、リヴォイシングと考えてほしい。 ・生徒の発言を活かすように心がけた。 ・どんな意見が出て、否定しないでいきたい。 ・どんな答えが出て、まずはポジティブ評価。あとは、もう一度復習をして、注目をさせる。 ・正しい答えが出てきたのでできなかったが、ちょっと考えていた答えと違う場合、ヒントをあげて、その子を答えを導かせたい。 ・みんなが意見を出してくれたけど、そこからさらに深く、じゃあ、これはどう思う？とみんなに問いかけるようにする。 →正しい答えを言わせて、ほんと？どこに書いてあるのかな？長野県などについても聞くと良い。正解のときに、子どもの考えを揺さぶってみよう。
<p>④ リヴォイシングの中で、授業者は何を考えさせようとしたのか。教材研究ではどんなことを調べていったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の道具の方が圧倒的に使いやすいし進化しているが、昔はこうなのだと知るだけでなく、昔の道具の良さもわかるように調べた。 ・新しいものが便利だと言って、昔のものを粗末に言ってしまうと、昔の良い点を伝えて、人々が頑張ってきたことを伝えなかった。 →発問の仕方は、「例えば、洗濯板は、今、結構売れている。なぜだと思う？」と、つつこんでみても良いかも。 ・昔の道具は、役割分担。昔はすごい一回当たりの量が多い。今でも、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に住んでいる人もいるけれど、時代とともに、娘がごはんを作ったり、今の共働きや、役割が変わっていることも気付いて欲しいと思った。 →着眼点が見方である。それを授業の中に入れていくと良い。モノにこだわるのではなく、関係に着目した所は、おもしろい。 ・日本の都道府県と特産品を理解するというのがあって、それをどういう風にすれば楽しくできるのかを考えて、パズルですと楽しくみんなが積極的にできるのでは。役割分担では、地方ごとに同じところをするのではなく、自分たちがしているものは、他のグループがしていないので、役割分担を行った。 →地理的な部分もそうだけど、あのような教材を作ることによって、参加できるのでは。社会科以前の話としても大事である。

<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる県を理解しようということで、兵庫県に絞ったが、あまりうまくいかなかった。教科書の教師用指導書を見て、教科書のコウノトリなどをクイズ形式でやった。 →「見方・考え方」を意識して教材研究をしていくと、授業が組み立てやすい。都道府県の学びは、地理的要素だけでなく、歴史的要素も入れていくようにする。
<p>⑤ 教材研究をもとに授業をしてみて難しかったのはどこか。</p> <p>将来教員になりたい学生が多い。そのため、あまり難しかったところはない。（全員、頷く）</p>
<p>⑥ 次なる課題は何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えたことがあってもやってみないとわからない。 ・教師が言う言葉は、とても大切であり、生徒が発言したことに対して何かを返したりするので、大事だと思った。 →生徒が何かを言った背景などを受け止めることが大切。 ・生徒が言ったことに対して、否定をせず、板書することやグループワークもリヴォイシングであることがわかった。 →ある授業を参観していた時、授業者はある子どもの気になる意見を、黒板に書いて残していた。それをもとに、授業を深めていた。生徒にとっては、自分の意見を書いてくれて嬉しかったと思う。 ・緊張すると笑ってしまうので、笑って流してしまう。リヴォイシング力をつけることが大切だと思った。 ・今回の授業で、うまくリヴォイシングが使えなかったと思っているが、少しずれた答えに対して、なぜそう思ったのか、どうしてそのように思ったのか、声掛けをできるようにしたい。 →あの子の意見とつながりだよね。など、つなげることも大切ではないでしょうか。 ・前に立つて、生徒の意見にどう返すのかを中心にしたが、グループ活動をしているときの意見も耳を澄ませると、みんなの前では発言できなくても、少人数では発言するような子どもの意見もよく聞いて、みんなの前で発表できるようにしたい。 →主体的で対話的な学びを行うために、小中高等学校で、何を深く考えているのかを読み取るのが、今、研究されている。研究授業では、子どもたちが何を聞いているのか、自分は気が付かないことも言ってもらえる。逆に、言っているのにわかっていない子どももいる。

7. おわりに

本研究では、リヴォイシングを意識した学習を行うことにより、社会科という教科の中で「主体的で対話的な深い学び」をつくるためにはどうすれば、学生が考えるきっかけ（糸口）になるかどうかといった疑問について、考察を行った。

その結果、子どもとの「やり取り」・「返し」を意識して授業を行うことにより、対話的な授業を行うことで、授業内に教師と生徒のコミュニケーションが活発となった。表3および表4からは、リヴォイシングを活用した授業を意識して行うことにより、教師と生徒の対話的な学習が活発に行われたことがわかる。初任教師は、「発問の技術」の力量が乏しく、子どもたちとどのように「やり取り」・「返し」を行うと良いのかについて不安がある。しかし、リヴォイシングの活用により対話的な授

業を行うことができ、「見方・考え方」に着目させ、さらに「深い学び」を行うことができるようになる。表5の③「リヴォイシング」で大切にしていることは何か。」を見てみると、「みんなが意見を出してくれたけど、そこからさらに深く、じゃあ、これはどう思う？とみんなに問いかけるようにする。」といった意見があった。このように、授業内でコミュニケーションを活発に行うことで、子供同士の対話が活発となり、もっと色々なことを知りたいという意欲が高まり、「深い学びを」行うことが可能になると指摘できる。

学生からの授業後の振り返りシートでは、「子どもとの『やり取り』『返し』を意識させることにより、対話的に授業を行うことが出来るようになった。」といったコメントをもらうなど、リヴォイシングを活用することで、授業を行うことに対して一定の成果があったと言える。これらの講義内容が、どのように学生の教育実践力につながるのか、協働的・対話的な授業案を提示してさらに授業分析を行うことが今後の課題である。

8. 付記

*アンケートや模擬授業、模擬授業後の聞き取り調査などの調査結果については、研究目的で使用することを伝え、参加者の自由意思で回答の可否が決められることや、匿名で行うため、個人を特定しないように配慮することを説明し、同意を得たうえで行った。

*本論文は、日本社会科教育学会第 69 回全国研究大会（2019 年 9 月 14 日、新潟大学）で口頭発表を行った原稿を、加筆修正したものである。

*本論文は、科学研究費補助金（基盤研究 C 研究課題：公共的な諸課題を解決するための市民性教育に関する基礎的研究 課題番号：18K02687）の成果の一部である。

—注—

- 1 私立 A 大学の初等社会科教育指導法の第 1 回目の授業で、アンケートをとった。それは授業づくりをしていく上で「不安に思っていること」「この授業で身に付けたいこと」を自由記述で書くものであった。そのアンケートを 14 項目に分類して集計した。上位の 3 つは最も多いのが、「教材研究」で 103、続いて「主体的な学び」で 98、3 番目には「実践力」74 があげられていた（学生数 121 名 複数回答あり）。模擬授業後の振り返りでの「どのようなことを今後、授業をする際に最も考えていかなければならない」の振り返りアンケート記述から、さきの 14 項目で集計すると、最も多いものが「実践力」で 41 あった（学生数 120 名）。特に「実践力」の記述内容は、「子どもからの発言に対してどう返せばいいのか」、主体的な学びとも関連させながら、「やる気を出せるためにはどんなやり取りをしたらいいのか」といった学習者との「やり取り」に関するものだった。ちなみに、「時間配分」18、「板書」8 であった。

- 2 秋田喜代美(2008)『改訂版 授業研究と談話分析』放送大学教育振興会、pp.72-81.
- 3 佐藤学 (2010)『教育の方法』左右社、p.98.
- 4 O' Connor, M. C., & Michaels, S. (1996). Shifting participant frameworks: Orchestrating thinking practices in group discussion. In D. Hicks (Ed.), New York: Cambridge University Press では、O' Connor & Michaels は、「議論の中で他の参加者によって行われる、口頭もしくは書き言葉での、ある生徒の発話の、ある種の再発話」と定義している。p.71.
- 5 一柳智紀 (2012)『授業における児童の聴くという行為に関する研究』風間書房.
- 6 前掲書 (2)
- 7 田島充士 (2010)『「分かったつもり」のしくみを探る』ナカニシヤ出版、pp.120-142.
- 8 O' Connor, M. C., & Michaels, S. (1996), p.87 には、Renee という生徒の考え方 (解法の仕方) をグローブアップすることで、その発言 (発話) の固有性を尊重し、対立する生徒同士関係性を良くすること、それよりもまして、Renee の話を聴くという姿勢を示すリヴォイシングをしている。
- 9 樋口直宏 (1995)「授業中の予想外応答場面における教師の意志決定・教師の予想水準に対する児童の応答と対応行動との関係」『日本教育工学雑誌』18 (3/4), pp.103-111.
- 10 前掲書 (3)、佐藤 (2010)、p.98.佐藤は、「学びは『世界づくり』と『仲間づくり』と『自分づくり』を三位一体で追究する対話的实践です。」と述べている。『世界づくり』とは、対象世界をまず理解し、新たな知を創造していくこととして捉えている。
- 11 文部科学省、社会・地理歴史・公民ワーキンググループ (2014)「社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて (報告)」配付資料 6
- 12 坂本篤史・秋田喜代美 (2012)「人を相手とする専門職 教師」金井壽宏・楠見孝『実践知』有斐閣、pp.174-193.子どもは学問体系通りに学習するとは限らない。教師は教科内容の知識を学問体系に沿って保持するだけでは不十分であり、「授業を想定した教科内容知識」が教師を他の職業と分かつ専門的知識であると指摘する。